

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 11 月 12 日 (2020.11.12)

【公開番号】特開 2019-63013 (P2019-63013A)
 【公開日】平成 31 年 4 月 25 日 (2019.4.25)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-016
 【出願番号】特願 2017-188986 (P2017-188986)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 0 8 G

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 9 月 24 日 (2020.9.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

変位可能な可動体と、
光源と、

前記可動体の変位を制御可能な変位制御手段と、

前記光源の発光を制御可能な発光制御手段と、を備え、

前記可動体には、前記光源からの光を遊技者側に透過可能な構成部が配置されており、
前記光源は、

前記可動体が変位しているときには、所定の発光態様で発光可能であることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の遊技機であって、

前記所定の発光態様とは、前記可動体の変位を強調する発光態様であることを特徴とする遊技機。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の遊技機であって、

モータと、前記モータの回転軸とともに回転可能な軸部と、前記軸部に設けられた回転部材とを含む可動体変位機構を備え、

前記回転部材は、

その重心が前記回転軸からずれており、

前記可動体変位機構は、

前記モータの回転駆動に伴って旋回する前記回転部材の移動に基づき、前記回転軸に垂直な平面視において前記可動体を変位させるものであり、

前記可動体は、

前記構成部を含む、遊技者側に露出する露出表面部を備え、

前記露出表面部は、

前記回転軸に垂直な平面視において所定の面積を有している形態であることを特徴とする遊技機。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の遊技機であって、

前記光源は、複数の発光素子からなり、

前記構成部は、前記複数の発光素子からの光をそれぞれ遊技者側に透過可能なものであり、

前記所定の発光態様とは、前記露出表面部において前記モータの回転駆動の回転方向とは反対の回転方向に光が流れるような発光態様であることを特徴とする遊技機。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の遊技機であって、

前記複数の発光素子を配置する光源ベース部を備え、

前記光源ベース部は、

前記複数の発光素子から前記可動体の前記構成部に向かう光には前記回転軸に平行な方向に進むものがある状態で設けられており、

前記構成部は、

前記複数の発光素子からの光を前記回転軸に平行な方向に透過させるものであり、

前記複数の発光素子は、

前記光源ベース部において、前記回転軸の延長線と交差する点を中心とした、第 1 仮想直線、第 2 仮想直線、および、第 3 仮想直線を含んだ互いに異なる複数の仮想直線上に配置されており、

前記モータの回転駆動の回転方向とは反対の回転方向に見て、前記第 3 仮想直線よりも前記第 2 仮想直線の方が前記第 1 仮想直線に近い位置にあり、

前記所定の発光態様とは、前記第 1 仮想直線上に配置された発光素子のみの点灯、前記第 2 仮想直線上に配置された発光素子のみの点灯、および、前記第 3 仮想直線上に配置された発光素子のみの点灯に順次切り替える発光態様であることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明の遊技機は、

変位可能な可動体と、

光源と、

前記可動体の変位を制御可能な変位制御手段と、

前記光源の発光を制御可能な発光制御手段と、を備え、

前記可動体には、前記光源からの光を遊技者側に透過可能な構成部が配置されており、前記光源は、

前記可動体が変位しているときには、所定の発光態様で発光可能であることを特徴とする。